

【佳作】

知ろうよ北方領土問題

北斗市立大野中学校

3年 岡本 栞蓮

『私達の生まれ育ったこの島を奪わないで下さい!』

もしも日本がロシアから北方領土を奪還したら、北方領土で生まれ育ったロシア人の島民達はこう叫ぶのだろうか。七十七年前に北方領土の島々で暮らしていた日本人が叫んだあの日のように。

第二次世界大戦で敗れた日本。その戦争末期のどさくさに紛れて旧ソ連軍に攻め込まれ占領された北方領土。その一九四五年から数えて今年で七十七年にもなる。その間、長きにわたりまるでロシア（や旧ソ連）の国の一部かのように支配されたまま現在に至る。当時、北方領土で暮らしていた日本人は自由を奪われ、強制的に退去させられたのだ。

私は戦争を体験した事がない。そして両親も祖父母も戦後の生まれだ。しかし現在、ウクライナへの侵攻を続けるロシア軍の映像をテレビ等で見る度に私の胸は張り裂けそうになる。ロシアが北方領土を頑なに返還しない理由として、そこで暮らす島民達への対応の問題、豊富な海洋資源の問題、そして地理的な軍事的理由が挙げられるだろう。プーチン大統領は北方領土を経済特区とし、進出する企業に今後二十年もの間、税金を免除すると言っている。更なる既成事実を作ろうとする魂胆だろうか。そうなる前に何とかして取り返したい所だが、一つだけ確かに言える事は武力による奪還のような悪しき歴史を繰り返す事なく平和的に対話によって解決しなければならないという事だ。映画『ジョバンニの島』は逆の立場であったとしても、今後、決してあってはならない事なのだ。もしも完全な形で返還が叶わないのであれば、共存はどうだろうか。世界初かもしれないが国家・民族・文化・言語の垣根を越えた共存が北方領土で生まれても良いのではないだろうか。

北方領土の問題を解決するには政府間の歩み寄りや努力の他に両国の国民、そして全世界の人々の興味と正しい知識、理解と協力が必要だろう。プーチン大統領も自国の国民の反応をととても気にしているように思えるので、情報統制やプロパガンダのないロシアへと変化して行ったら北方領土問題も解決へと向かうかもしれない。それほど国民感情を左右する情報は大きな意味を持つのだと思う。正直に話すと私は北海道に住んでいるにも拘わらず夏休み前の学校で『ジョバンニの島』を観る迄、そしてこの作文を書く為に色々と調べる迄は『北方領土は北海道の北東に位置し、ロシアに奪われた昔は日本の領土だった島々』くらいの知識しか持ち合わせていなかった。しかし知れば知るほど北方領土や竹島、尖閣諸島等の領土問題に強い関心が沸いて来た。

私達はもっと知らなければいけないのだ。私達のような若い世代も含めて国民全体が身近な問題として捉え、正しく理解し、協力し合う事が問題解決に必要な不可欠だという事を。